

2013（平成25）年7月2日

2013（平成25）年度 私立短期大学図書館協議会 全国理事会 議事録

日 時：2013年5月16日（木） 14:00～17:00

場 所：南青山会館（農林水産省共済組合東京宿泊所）

出席者：18名（敬称略）

【本部】＜亜細亜大＞毛利和弘、＜千葉経済大＞齊藤誠一、＜大手前大＞前川和子、
＜カリタス女子短大＞石田孝夫、＜共立女子短大＞久保寿治、
＜聖徳大＞林 浩次、＜山野美容芸術短大＞久保田智弘、
＜日本体育大＞谷口 豊、＜青山学院女子短大＞小林陽子 以上9名

【地区】[北海道]＜北海道武蔵女子短大＞ 玉田清市
[東北]＜八戸学院大＞織戸 浩、中村富美夫
[関東甲信越]＜埼玉東萌短大＞ 片野裕嗣
[東海・北陸]＜名古屋柳城短大＞ 藤田憲哉
[近畿] ＜大阪青山大＞ 高橋ちあき
[中国・四国]＜今治明德短大＞ 土岐敦子
[九州]＜長崎女子短大＞森 弘行、荒木恵子 以上9名

司会・進行：久保（本部事務局）

配付資料：①議事次第、役員名簿、出席者名簿ほか ②各地区報告書、通信等
③全国総会資料

1. 会長あいさつ

毛利会長より、勧誘のPR活動の効果か久方ぶりに新規加盟が2館あった。昨年度の全国研修会には16もの非加盟館（現在加盟のない中国地区からも）の参加があり、盛況に終わったと担当の近畿地区に謝意を表した。1,000円会費の懇親会で結果的には黒字との報告があり、ぜひ次回の参考にしたい。団体賛助会員のお誘いや研究誌に各地区研修会の論稿を引続きお願いしたい。全国会報が新しい制度により、今回から年次報告となるとの説明があった。

2. 自己紹介

出席者18名の自己紹介。

3. 各地区事業報告

北海道から九州の順で、昨年度の地区事業状況、本年度の会勢と事業計画案が報告された。

4. 総会について

事業報告、決算・監査報告、新役員、事業計画、予算案の確認を行った。

(1) 総会議長について

毛利会長より、地区理事 2 年目の方に依頼していたが今回該当者なく、本部理事の前川氏にお引受けいただいた。

(2) 新役員について

毛利会長より、任期満了となる本部理事 4 名に了解を得ているので再任をお願いしたいとの申し出があり、了承された。なお、木内公一郎氏は昨年度末で退任されたとの報告があった。また、合同幹事会（のうち幹事会に出席するメンバー）で交代する方に引続き 2 年間「サポート幹事」を、主として短大単独館で活躍している方に幹事MLでご意見や活動のサポートをしていただく任期のない「常任サポート幹事」（現在 2 名に内諾を得ている）をお願いしたいと申し出があり了承された。

(3) 規約改正について

前回の前川理事から OB・OG に声をかけたいが会費 10,000 円をもう少し下げられないかとの提案に対し、毛利会長より合同幹事会で検討の結果、現行の年会費 10,000 円は団体会員とし、新たに年会費 5,000 円の個人会員を設ける会費規程の改定案について了承された。なお、今回より規程にある「制定」を「改正」とし、西暦を加えた表記に統一することにした。参加は正会員と同様にし、『研究誌』も 1 部送付するとの説明があった。

(4) 全国研修会について

事務局の久保氏より、近畿地区の濱岡氏を中心として開催した 2012 年度全国研修会が成功裏に終わった。日本私立短期大学協会図書館情報委員会（以下、日短協）との隔年開催に伴い、次回の 2014 年度については齊藤常任理事を中心に準備を進めていくとの報告があった。日短協主催の研修会は、9 月 9 日（月）・10 日（火）にアルカディア市ヶ谷で開催の予定。

(5) 決算・予算について

久保田氏からの決算報告に対し、小林氏より監査報告があり、谷口氏から所感が述べられた。

(6) 『図書館年鑑』について

石田理事より、私短図協 2 年・公短図協 1 年交代で担当の公立の短大が 20 校を割り、日本図書館協会短大・高専部会でまとめることになったとの報告があった。

(7) 研究誌の原稿執筆について

毛利会長より、編集担当の木村理事から現状に合せた「原稿執筆について」「表記の凡例」の改訂案について説明があり、了承された。

5. その他

・中国・四国地区加盟館の今後の活動について

地区担当の土岐氏から会員減に伴う統廃合についての確認があった。毛利会長より、引続き活動可能であれば、未加盟館に働きかけて組織強化を図りたいとの回答があった。久しぶりに2館の加入があり、未加盟館へ協議会の存在とメリットをアピールする文書の効果があったと考えられるので、今年度も7月くらいに発送することを予定しているとのことであった。

・加盟館名簿について

久保氏より、加入館名簿の館名と総会出欠票の未提出館が協議会メールを受信できているかをご確認いただくよう依頼があった。

・関連団体との連携について

監査の谷口氏から組織が違うのでやりにくいだろうが、私短図協、公短図協、日本図書館協会短大・高専部会、日短協図書館情報委員会の4組織の連絡窓口を持つ時期ではないか、全国研修会が重ならないように隔年開講を決めた当時は体力があったが、そろそろ議題として投掛けあう時ではないかとの提案があった。

齊藤理事より、日短協は337校（2012年9月）が加盟しているが図書館関係は非常に脆弱になっており、組織率99%でも研修会に人をだせない大変厳しい状況である。4つの組織が複層的に動いていることがいいのか、どこかで連携を図るなど何らかの対応策が必要だろう。取組みにしても短大には体力がないので、連携して相互にバックアップする機能をもう少し強化できるといい。私短図協は、地区支部を持っていることが強みである。そこが日短協との違いで、地区代表がでて組織を構成していることが重要であり、ボトムアップができる組織である。

石田理事より、短大・高専図書館部会、私短図協、日短協、それぞれ加盟館の多くは重なっているが、若干異なってもいる。しかも、直接「会費」を徴収しているのは、私短図協だけである。また、日本図書館協会短大・高専部会の部会長は私短図協の会長が兼務していた経緯があるとの補足説明があった。また、現実には、短大・高専図書館部会、私短図協、日短協とも同じ人が関わっている。今後としては、例えば研究部門の担当を切り離すというようなことも考えられる。

前川理事より、親団体が加盟している組織では独自の活動ができないということで発足した団体で、地区活動に重点を置いて連携している。

谷口氏より、この事業連携は全国研修会を対象として、全国レベルは協賛でやってもいいのではという提案である。

毛利会長より、具体的には今後の問題である。日図協に高専が入り2年に1回開催のワークショップは、見学会が実情である。図書館大会の短大・高専部会では短大単独でやる力がない。今のところは、本部として何とか頑張っていきたいので、協力をお願いしたい。

以上